

作品名称	帯広市図書館
------	--------

整理番号	3
------	---

**□応募建築物の概要**

- 所在地 北海道帯広市西2条南14丁目3番地1
- 主要用途 図書館 ●構造及び階数 SRC造 3階建
- 敷地面積 3,034.93 m<sup>2</sup> ●建築面積 2,742.06 m<sup>2</sup>
- 延べ面積 6,544.53 m<sup>2</sup> ●建設費 285,600 万円
- 竣工年月日 平成17年10月31日

**□建築主**

- 住所 〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地
- 氏名 帯広市

**□設計者**

- 住所 〒060-0002 札幌市中央区北3条西1.4丁目2番地
- 氏名 株式会社環境設計

**□施工者**

建築主体（その1）工事

- 住所 〒080-0807 帯広市東7条南8丁目2番地
- 氏名 株式会社萩原建設工業 外4社JV

建築主体（その2）工事

- 住所 〒080-0807 帯広市西4条南8丁目12番地
- 氏名 株式会社宮坂建設工業 外3社JV

**□連絡先**

- 住所 〒060-0002 札幌市中央区北3条西1.4丁目2番地
  - 氏名 株式会社環境設計 下村 憲一 (担当-大西)
- TEL. 011-271-0196 FAX. 011-271-0175 E-mail ad21@wave.dti2.ne.jp

**□企画の特徴（地域懇談会の開催等、特に配慮した点）「市民が考え、使い、育てる交流型駅前図書館」**

帯広市の新図書館は、市民待望の社会サービス施設であり、十勝圏の中核図書館である。そのために新図書館の構想や計画をつくる過程から、多くの市民の参加により意見や提言を受け、建設から運営に至るまで「市民が考え、使い、育てる図書館」の実現を目標としてつくられてきた。ハブ図書館としてのシンボル性と機能性を兼ね備え、広域連携による貸出サービスやIT情報ネットワークの拠点図書館となるよう、敷地はJR帯広駅前に選定されている。駅前広場に近接し、駅南区画整理事業により街区街路整備が行われ、今後の発展充実が期待されている駅前文化ゾーンである。帯広十勝にふさわしい顔をもつ交流型の駅前図書館が求められた。

**□設計の特徴 「メディアポイドをもつ環境配慮型図書館」**

収蔵図書冊数50万冊、閲覧座席数750席の規模の図書館では、利用者にフロアー構成と空間デザインの指標となるコンセプトを設定している。

- 1階: 本と人々が出合う「賑わいのフロアー」
- 2階: 本と静かに向かい合う「探求のフロアー」
- 3階: 本と人とがくつろぐ「憩いのフロアー」

またこの図書館はメディアポイドと名づけられた4つの吹抜空間をもつ。それは「図書館」という情報空間を感じるための知覚装置であり、環境配慮型建築を実現するための環境装置でもある。人々はメディアポイド（媒体空間）をとうして、図書館を構成する人、資料、空間のもつ情報を感知する。そこではインタラクティブな視覚的コミュニケーションによって個々の活動が活性化される。

**□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮等） 「外断熱レンガブロック自立工法とアースチューブ」**

高断熱高気密の外断熱工法を採用し、外部仕上げは400×200×厚100の系統レンガブロックの自立工法によって施工されている。またメディアポイドを活用した躯体蓄熱効果とアースチューブ外気調整システムにより環境配慮型建築の室内環境が整えられている。トップライト自然採光、ハイサイド自然通風、アースチューブビット地熱利用など省エネルギー、省資源のための配慮が数多くなされ、施工段階においてリサイクル素材など環境負荷が少なく、ライフサイクルコストが有利な材料、工法を選択した。

**□完成後の地域への貢献度等 「使いやすく、親しみやすい田園都市型図書館」**

乗降客約5千人/日の帯広駅をはじめバスターミナル、周辺商業施設利用者を含めると十勝帯広において最も人が集まっている地域に立地しており、1日の平均利用者数は当初計画の2倍の2千人を数える。使いやすく居心地の良いことが親しみやすさにつながるためユニバーサルデザインはもとより、動き易く判りやすい動線計画や配架計画、落ち着いて本と接することができる閲覧空間計画、用途ごとに使いやすい家具備品計画など細かい配慮を大切に考えた結果、子供からお年寄りまで世代をこえて親しまれ利用されている。

作品名称

帯広市図書館

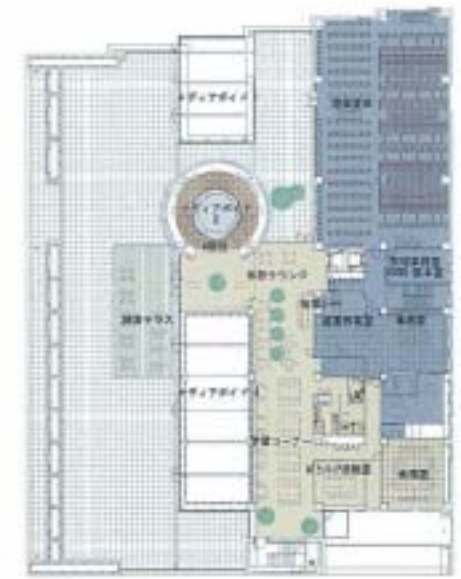
整理番号

3



作品名称	帯広市図書館
------	--------

整理番号	3
------	---



作品名称	レンガの館および一連施設 (JR琴似駅北口地区第一種市街地再開発事業)
------	--

整理番号	8
------	---

## □応募建築物の概要

- 所在地 北海道札幌市西区八軒1条西1丁目
- 主要用途 集合住宅、商業・業務、駐車場
- 構造及び階数 RC造地上4.0階地下1階建
- 敷地面積 9494.53㎡
- 建築面積 5738.93㎡
- 延べ面積 38980.26㎡
- 建設費 .....
- 竣工年月日 平成18年 3月 31日

## □建築主

- 住所 〒063-0811 札幌市西区琴似1条1丁目7-1
- 氏名 JR琴似駅北口地区市街地再開発組合 理事長 宮坂 友子

## □設計者

- 住所 〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1
- 氏名 ドーコン・建邑社共同企業体 (代表 株式会社 ドーコン)

## □施工者

- 住所 〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目5
- 氏名 株式会社 奥村組 札幌支店

## □連絡先

- 住所 〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1
- 氏名 株式会社 ドーコン 建築都市部 秋山 広
- TEL. 011-801-1550 FAX. 011-801-1551 E-mail hal222@docon.jp

## □企画の特徴(地域懇談会の開催等、特に配慮した点):単なる街の更新とは異なる街づくりの試み

計画地は、JR琴似駅の北口に面する約1haの街区。鉄道の高架化や駅前広場整備を契機に、ここ数十年、駅南口側で一連の再開発事業が展開、駅北口側にもその勢いが波及し、再開発事業となった。この事業の最大の特徴は、計画地に残された古い建物の再生計画(レンガの館)や、計画地内の古い倉庫で文化的活動を繰り広げていた劇団の再誘致(コンカリーニョ)など、ソフトも含めた事業計画をつくり、単なる「街の更新」とは異なる街づくりを試みたことにある。

## □設計の特徴:北口地区のコンセプト~3つの「繋ぐ」

- ①「街を繋ぐ」一連の事業理念・街づくりの継承:南口側で展開してきた生活都心的な街づくりを継承し、集合住宅を核に生活関連施設を計画。住宅をタワー型とし、その周囲に緩衝帯としての低層商業施設および駐車場を分棟配置。日影や風害・圧迫感など周辺への影響を緩和。施設群は駅直結の空中歩道で繋ぎ、雪国でも安心安全に生活できる街づくりを進めた。
- ②「時を繋ぐ」過去から現在、そして未来へ:計画地には昭和4年に仮設工場として建造された建物、通称「レンガの館」があった。琴似の歴史を象徴する産業遺構として札幌市から都市景観重要建築物第1号の指定を受け、集会所として再利用。テナントとして地域ミニFM局の三角山放送に入ってもらい、施設の維持管理を委託する仕組みを考案した。
- ③「人を繋ぐ」地域に根ざす文化活動のサポート:開発前、レンガの館の裏側にあった石造倉庫では「コンカリーニョ」という劇団が、劇場不可の用途地域にも関わらずアングラ的に劇場運営をしていた。劇場を「生活支援型文化施設」と位置づけ、地域住民を対象に公開会を開催。都市計画審議会を経て、用途制限緩和の許可を取得し、商業棟内に劇場を計画した。

## □施工の特徴(工法の特徴、施工上の配慮、工夫等):レンガの館 蘇生術 他

- ①レンガの館の改修「保存」:部分掘削しながらの基礎補強、既存レンガ壁にRC耐震壁を一体打設した構造補強、金具と鉄骨による小屋根補強など、風合のあるレンガ壁やのこぎり型屋根の外観、木トラスが見える内観を損なわないよう配慮した。
- ②レンガの館の改修「再生」:四角い箱としてファニチャー的にセットされた放送スタジオの防音性、スチールフレームとガラスの風除室のシンプルな構成、レンガ壁が欠落した部分に新設されたコンクリート打放し壁の表情とスチール開口のシンプルな納まりなど、新しく付加する部分には敢えて現代的素材を用い、昔からそこにあったものと対比させた。
- ③劇場の新設:2層吹き抜けの劇場は、観客効率を考慮した床面高の平土間のレベル精度、屋外のポーチ・広場に通じる大開口の扉の防音性などに配慮し、演劇に限らず幅広いパフォーマンスや地域イベントが可能な自由空間とした。

## □完成後の地域への貢献度等:地域に開かれた施設と活動

街区周囲は、既存樹を残しつつ道路幅と歩道状公開的空地を設定。各棟の間隔は広場や通り抜け路地とし、ロードヒーティングを整備。地域の人々も自由に往来できる敷地内通路となった。レンガの館は、普段は計画地および地域の方々が自由に使える集会所。三角山放送主催で積極的にリサイクルなどが開催されている。劇団は積極的に地域活動を行い、平成15年にNPO法人の認証を受けた。現在、北口II地区と琴似4・2地区で事業計画が進行中、「繋ぐ」街づくりが継続している。

作品名称	レンガの館および一連施設 (JR琴似駅北口地区第一種市街地再開発事業)
------	--

地区番号

8

# 繋ぐ

## ■計画概要

JR琴似駅は札幌駅から2駅5分、市中心部から5km圏内に位置する。鉄道高架事業や駅前広場整備を契機に、一連の再開発事業を展開。集合住宅や商業施設・ホテルなど多機能施設群を空中歩廊でネットワークし、雪国でも安心安全に歩いて生活できる街づくりを進めている。JR琴似北口地区は、平成8年地元住民による懇話会に端を発し、10年を経て実現した法定再開発事業。高層住宅(40階)、メディカル主体の商業施設、駐車場および空中歩廊で構成。計画地に残された古い建物の再生計画(レンガの館)や、劇場不可の用途地域における劇場再誘致(コンカリーニョ)などハード整備のみならず、地域の歴史や文化を継承するためのソフトも含めた事業となった。

レンガの館および一連施設

(JR琴似駅北口地区第一種市街地再開発事業)



## 街を繋ぐ

一連の再開発では、人が住まう街づくりを目指してきた。人が住まう街であることが、街の活力になるという理念。集合住宅を基本に複合用途と駅直結のネットワーク、街内団の歩行空間や施設間の隙間〜広場、通り抜け路地など、北国ならではの街づくりを考えた。街づくりの継承



作品名称	レンガの館および一連施設 (JR琴似駅北口地区第一種市街地再開発事業)
------	--

整理番号	8
------	---

## 時を繋ぐ

計画地には昭和4年缶詰工場として建造され、地域の人々に親しまれてきた建物、通称「レンガの館」があった。レンガの館は単なる改修だけではなく、再利用の用途及び事業完了後の運営・維持管理も含めた総合的な仕組みづくりを考えた。過去から現在そして未来へ。



レンガの館：外観



レンガの館：古いままのものと新しいものの対比



レンガの館：カフェ。建前当時の風情を残しつつ新しい街並み



レンガの館：ガゼット広場



レンガの館：通りを歩くと



レンガの館内部：会議室

## 人を繋ぐ

レンガの館の裏側の石造倉庫では「コンカリーニョ」という劇団が、劇場不可の用途地域にも関わらずアングラ的に劇場運営をしてきた。地元住民の理解を得る活動を続け、公聴会や都市計画審議会を経て用途制限緩和の許可を取得。事業完了後、再びここに戻ってきて活動を再開した。地域文化の継承。



外観：レンガの館をモチーフにしたアクセント



外観：劇場内部



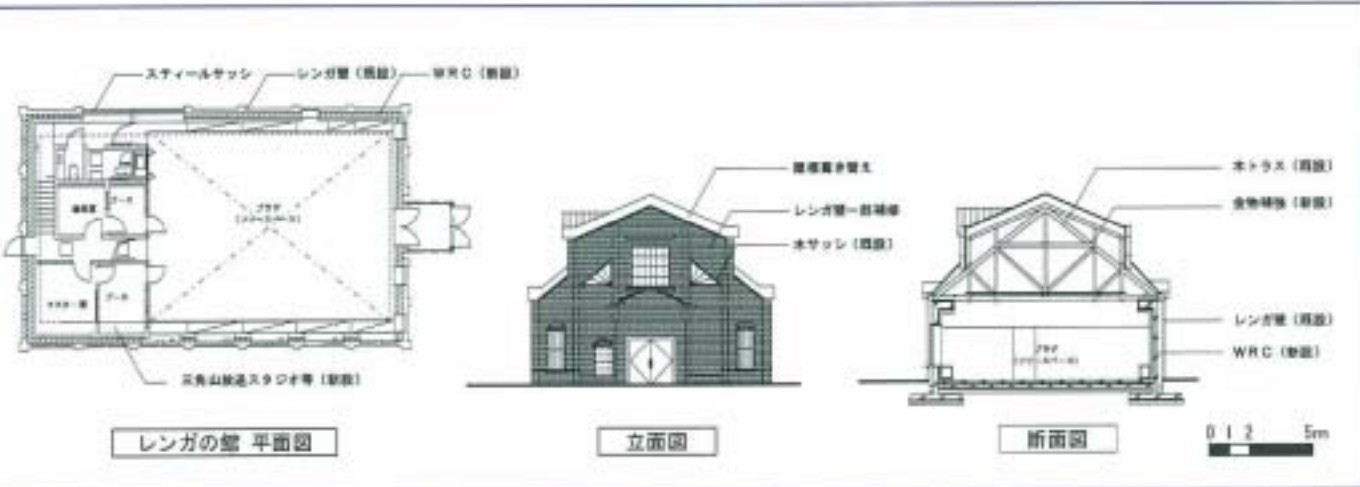
外観：劇場ホワイエ



劇場内部：演劇風景



劇場内部：観劇風景



作品名称	道新荘
------	-----

整理番号	9
------	---

□応募建築物の概要

- 所在地 北海道札幌市南区上定山溪西3丁目
- 主要用途 宿泊施設 ●構造及び階数 RC造・一部S造・木造  
地上4階 地下1階建
- 敷地面積 2271.97 m<sup>2</sup> ●建築面積 459.81 m<sup>2</sup>
- 延べ面積 1241.04 m<sup>2</sup> ●建設費 万円
- 竣工年月日 2006年 3月 31日

□建築主

- 住所 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6
- 氏名 株式会社 北海道新聞社

□設計者

- 住所 〒063-0033 札幌市西区西野3条8丁目2-1
- 氏名 (有)遠藤建築アトリエ 遠藤謙一良

□施工者

- 住所 〒060-0061 札幌市中央区南1西1-4 大成札幌ビル
- 氏名 大成建設株式会社

□連絡先

- 住所 〒063-0033 札幌市西区西野3条8丁目2-1
- 氏名 (有)遠藤建築アトリエ 遠藤謙一良  
TEL. (011) 661-3300 FAX. (011) 661-3301 E-mail endo-aa@agate.plala.or.jp

□企画の特徴（地域懇談会の開催等、特に配慮した点）

敷地は古くより札幌市の観光温泉地として親しまれてきました定山溪に位置します。本計画は老朽化した新聞社の保養所を一般解放も考慮した宿泊施設として再生することを求められたプロポーザルに基づく計画です。施設は時代に対応した和洋室をバランス良く配置させたゆったりしたスペースを確保。また、周辺環境と一体となった環境（散策路・庭）を整備し、心身共に寛げる時間を過ごす空間の計画です。古い施設を再生し、量から質の時代にふさわしい環境の魅力を随所に感じる質の高い空間を目指しました。

□設計の特徴

保養所を宿泊施設に用途変更し、年代の違う4つに分かれた建築（木造・S造・RC造）のそれぞれを構造補強し、改修しました。特にRC部分は耐震診断に基づく耐震補強を行い、確認申請で増築可能な約50㎡を渡り廊下・ELVの新設に伴う地下階の増床にあてました。構造補強によるRC壁の入替に際し同時に河川側の空間を区分として拡げる計画としました。また、国立公園内の為、自然景観を配慮した色彩計画としました。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

増築可能面積が約50㎡の為、他は既存面積内の改修でした。宿泊棟は耐震診断を行い、耐震審査会の指導に基づいて構造補強を行いました。その為、壁・床を一部解体、鉄筋をやり変え、改修し、補強壁も新設しました。また、機能性を高めるため、従来にないELVを新設し、地下を手掘りで掘下げELVスペースを新設しました。断熱もやり変え、熱性能を高めました。また、温泉熱を利用し熱交換を行い、暖房・給湯に利用。資源を活かした省エネルギーの計画としました。

□完成後の地域への貢献度等

定山溪は古くから札幌の観光名所として、また、温泉保養施設として多くの人々から愛され、発展してきました。現在は大型化した宿泊施設を中心に観光地としての役割を担っていますが、よく見ると老朽化し、利用されていない施設が多く点在し、単体で完結した施設が多く、定山溪全体としての観光地の魅力が活かされていません。本計画は中規模施設の再生ですが、量から質が問われる時代に大切な時間を自然と一体となった最良の環境で過ごすことは大切なことと考え、周囲と呼应した環境をつくることを目指しました。その為には施設単体の考えではなく地域全体で美しい景観と、魅力的で過ごして楽しい道と街を共有することが必要と痛感しました。本計画を通して考えた点の再生が地域の再生につながることを期待します。



作品名称 道新荘

整理番号

9

BEFORE	AFTER	Under construction	AFTER
 <p>再プランニング 改修後</p> <p>上：旧1st建物の再建 本：旧1st「旧旅館本館」周辺の交通体、道路、駐車場、第一遊歩道を整地し、新たな遊歩道を創出した。</p>		 <p>上：既存建物を、可能な限りスケルトン化する。 中決：中抜き設備を行い、仮設改修計画を機軸とする。「仮設改修計画推進委員会」の認定を得る。 右：改修計画に計って、建物を改修、写真は機軸上、新築に近似的な設計。</p>	 <p>ブリッジ 夜間</p> 
 <p>再プランニング 改修後</p> <p>上：旧1st建物の再建 本：旧1st「旧旅館本館」の構造を調査し、構造上の問題点を洗い出し、必要に応じて補修工事を行った。</p>		 <p>上：施工前、既存の既存建築の 中絶、修繕のされていない中絶は、 洗剤除去し、再度として のみ使われていた。</p>	 <p>レストラン</p>  <p>エントランス</p>
 <p>再プランニング 改修後</p> <p>上：旧1st建物の再建 本：旧1st「旧旅館本館」の構造を調査し、構造上の問題点を洗い出し、必要に応じて補修工事を行った。</p>		 <p>上：正山溪の温泉館の再建の一環として、旧1stの再建も 進める。改修計画として中絶 を計画した。</p>	 <p>ブリッジ (昼間)</p>  <p>ブリッジ (夕間)</p>  <p>受付カウンター</p>
 <p>再プランニング 改修後</p> <p>上：旧1st建物の再建 本：旧1st「旧旅館本館」の構造を調査し、構造上の問題点を洗い出し、必要に応じて補修工事を行った。</p>			 <p>客室 (洋室)</p>
 <p>再プランニング 改修後</p> <p>上：旧1st建物の再建 本：旧1st「旧旅館本館」の構造を調査し、構造上の問題点を洗い出し、必要に応じて補修工事を行った。</p>		 <p>式川側ファサード</p>	

作品名称	JR 函館駅
------	--------

整理番号	10
------	----

## □応募建築物の概要

- 所在地 北海道函館市若松町 11-55
- 主要用途 鉄道施設
- 構造及び階数 鉄骨造 2階建
- 敷地面積 9,502.17㎡
- 建築面積 4,333.46㎡
- 延べ面積 6,274.34㎡
- 建設費
- 竣工年月日 2003年 10月 2日

## □建築主

- 住所 〒060-0011 札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 1-1
- 氏名 北海道旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 小池 明夫

## □設計者

- 住所 〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 2 丁目 5-2 札幌泉第 1 ビル
- 氏名 共同設計：デンマーク鉄道会社・JR 北海道・北海道日建設計・日本交通技術  
代表者：株式会社北海道日建設計 代表取締役社長 菅野 彰一

## □施工者

- 住所 〒060-0001 札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 札幌三和ビル
- 氏名 株式会社大林組・加藤組土建株式会社特定共同企業体  
代表者：株式会社大林組札幌支店 執行役員支店長 八戸 裕

## □連絡先

- 住所 〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 2 丁目 5-2 札幌泉第 1 ビル
- 氏名 設計管理部門 亀井設計室 亀井 昭  
TEL. (011) 241-9438 FAX. (011) 241-7598 E-mail. kameja\_hns@nikken.co.jp

## □企画の特徴（地域懇談会の開催等、特に配慮した点）

- ＜まちづくりの一環としての駅＞ 本施設は衰退し狭隘化した駅周辺を、函館の歴史を生かし、21世紀に生き・訪れる人が函館の魅力が感じられるように再生、活性化することをめざし、交通結節点の充実、高次都市機能集積拠点の再形成を目指した「函館駅前土地区画整理事業」の拠点施設として整備された。
- ＜函館市民をはじめ多岐にわたる人々が参加して協議が行われ計画＞ 平成 10 年度から地元の団体、地権者、公募委員からなる「函館駅周辺整備市民懇話会」で協議が行われ計画が進められた。また、学識経験者、開発局、道、JR 北海道、地権者、地元経済界、函館市などが加わり「函館駅周辺空間検討委員会」、「函館駅前地区顔づくり委員会」協議が行われ計画が進められた。

## □設計の特徴

- ＜ロトングを中心とする外観デザイン＞ 協議会等で求められた「駅らしいこと」「美しいこと」「周辺環境と調和のあること」を基本に、外観デザインは函館市民の象徴である臥牛山のシルエットを借景し、中央に象徴的なロトングを配置し、ガラスとチタンパネルによるシンプルでモダンなデザインとした。
- ＜函館の夜景や景観への配慮＞ ロトングの特徴的な灯りは、世界的に有名な函館の夜景などの景観を定めた「函館ひかりのおくりもの」に参加して先導的な役割を担っている。また、外観のシンプルな材料の特性と構成により、昼夜ともに光の変化を生み、開放感、透明感を与えることに留意した。
- ＜駅の持つドラマ性を高めるロトングを中心とする空間構成＞ 内部はロトングのドラマティックな空間により中心性を与え、6mの高さに設けたブリッジにより、ロトングで意図された駅のドラマ性を更に高めるインパクトの強い空間を形成している。
- ＜バリアフリーへの配慮＞ 頭端駅の特性を活かし、ホームから駅前広場まで段差無く移動できる。
- ＜建築の長寿命化とランニングコストの低減＞ 外装材は軽量化と塩害に強くメンテナンス性を考慮しチタン製パネルとガラスによるノンシール工法を採用し、建築の長寿命化とランニングコストの低減をめざした。また、主構造は軽量化が図られ、資源の再利用可能な鉄骨造とした。

## □施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

- ＜使いながらの施工＞ 旧駅舎を使いながら工事は進められ、旧駅舎の解体まで仮設通路の盛り替えは 7 回に及ぶ。最初に連絡通路が完了し仮設通路が施工中の新駅舎の中央を通る形で工事が進められた。
- ＜地下水への配慮＞ 敷地は海岸に密接し水位が高く、地下構造には、止水と施工の簡略化を兼ねて 80 cm のマットスラブ工法を採用した。

## □完成後の地域への貢献度等

- ＜待ち合わせ場所としての認知＞ ホームをつなぐ連絡通路は光に溢れ修学旅行生の格好の集合場所となっている。流政之氏の彫刻「防人」の設置されたロトングは待ち合わせの場所として定着しつつある。
- ＜飲食・物販の利便性向上＞ 飲食店、物販店の売り上げは旧駅舎との比較し 1.8 倍と好成績を上げた。
- ＜市民のための施設としての利用＞ 2 階に設けたフリースペースは函館市民の様々なイベントに利用され、市民の公共のスペースとして根付いている。



作品名称 JR 函館駅

整理番号 10



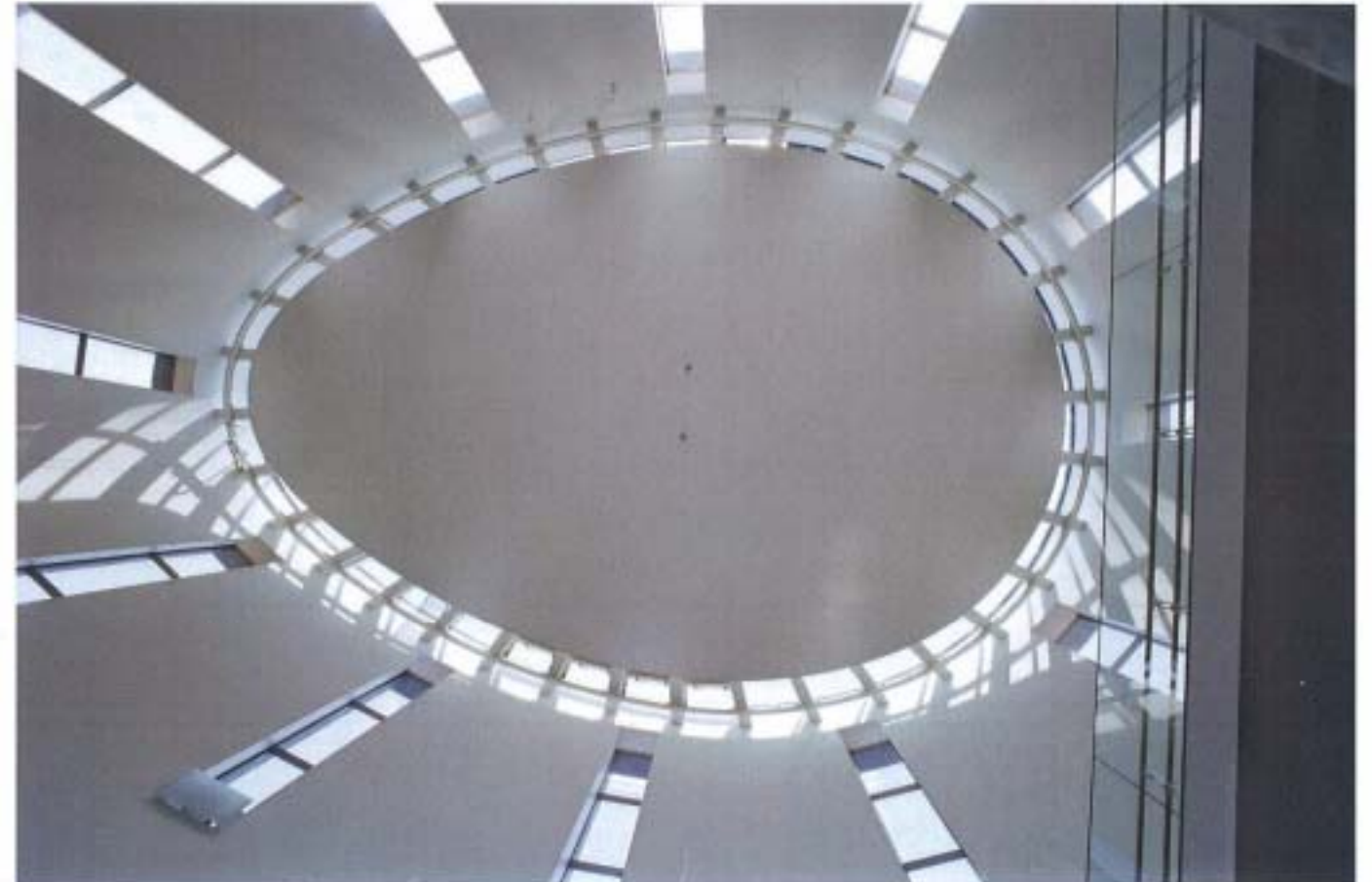
コンコース。左側は正堂券売出入口。



コンコース。右側エスカレーターで3階飲食店へ。



2階のロトンダに架かるブリッジ。



ロトンダの天井を見上げる。

作品名称	情緒障害児短期治療施設
------	-------------

整理番号	14
------	----

## □応募建築物の概要

- 所在地 北海道伊達市松が枝町 243 番地 1
- 主要用途 情緒障害児短期治療施設 ●構造及び階数 鉄筋コンクリート造 2階建
- 敷地面積 14590.00 m<sup>2</sup> ●建築面積 1604.62 m<sup>2</sup>
- 延べ面積 2536.49 m<sup>2</sup> ●建設費  円
- 竣工年月日 2006年 3月 15日

## □建築主

- 住所 〒052-0012 北海道伊達市松が枝町 243 番 1
- 氏名 社会福祉法人クラブ

## □設計者

- 住所 〒164-0013 東京都中野区弥生町 2-7-5 メイトウビル B F
- 氏名 藤本社介建築設計事務所

## □施工者

- 住所 〒060-8617 北海道札幌市中央区北 1 条西 2 丁目札幌時計台ビル
- 氏名 清水建設株式会社 北海道支店

## □連絡先

- 住所 〒164-0013 東京都中野区弥生町 2-7-5 メイトウビル B F
- 氏名 藤本社介建築設計事務所
- TEL. 03-5351-8136 FAX. 03-5351-8172 E-mail kojiaoki@poppy.ocn.ne.jp

## □企画の特徴（地域懇談会の開催等、特に配慮した点）

情緒障害児短期治療施設とは、さまざまな理由によって心に負担を負った子供たちが集まり、共に生活する中で徐々に自分たちの生活を取り戻していくための施設である。厚生労働省が 2010 年までに全国全ての都道府県に情緒障害児短期治療施設を設置する方針を明らかにしたことを背景に、北海道初の施設として計画され、前進となる道立有珠保健学園の約 50 年の歴史と伝統を受け継ぎつつ、今までにない新しい施設のあり方が求められた。

## □設計の特徴

情緒障害児短期治療施設には、大舎型と小舎型というふたつの対照的な型がある。大舎型は長い廊下に面した形で、大勢の子供の面倒を見やすい反面、スタッフと子供たちの関係が疎になりがちである。小舎型は小さな住宅スケールの分棟型で、スタッフと子供たちの親密な関係を表現する一方、マンパワーが分散してしまう問題がある。ここでは小舎型の親密な空間の利点と大舎型の集約のメリットを両立して新しいタイプの情緒障害児短期治療施設を考えた。50 人の定員を 3 つのグループに分け、それぞれに親密な大きさのリビングを与える。リビングは、個室群、トイレや洗面、そしてスタッフルームなどの 5、6 個の箱で囲まれた空間であり、それら 3 つのユニットを、スタッフルームをヒンジの中心として共有することで、2 層にわたって組み合わせる。スタッフルームは 1 ヶ所に集約され、3 つの適度な親密さの生活空間が分散して配置されるのである。機能的にはスタッフルームがひとつの中心となるが、しかし体験的には中心は決して視覚化されない。子供たちにとっては自分たちのリビングや個室が中心となるであろう。無数の中心を持つこの建物ならではの機能性である。

もうひとつの特徴は、このプランが必然的に持つ「隠れられる場所」である。箱と箱の間に生まれたイレギュラーなアルコーブは、リビングと連続しながらも文飾された小さなスケールの場所である。ここで暮らす子供たちが何よりも他者との関係や距離感の回り方に敏感になっていることを考えると、離れていながら繋がっている関係によって自由な距離感の選択性と偶然性を両立したこの空間は、ひとつの原型になるであろう。

## □施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

構造は鉄筋コンクリート造を採用し、壁の仕上げは内外とも同様のアクリルリシン吹付けとしている。リシンの僅かな凹凸が、箱と箱のすき間やトップライトから差し込む外光を受け止めることで、繊細で柔らかい表情を作り出している。様々な角度に振られた壁面の織りなす風景は、これからも子供たちの日常に多様性と豊かさを与えることになるであろう。また、天井には手摺と同寸法のルーバーを、単一方向に揃えて設え、ランダムに配置された箱の存在感を強めている。ルーバーは塗装による反りを考慮し、MDF 材を採用している。さらに、床には幅広のパイン材三層フローリングを、手摺には道産材トドマツをそれぞれ採用し、オイルステインで色調を整えてはいるものの、クリヤ系の仕上げに留めることで、漆喰調の抽象的な白い壁面に対して、木質特有の暖かさを付加している。

箱と箱の間の開口部は、堅持を躯体にのみ込ませることで、上記のような壁面の素材感が内外に連続して感じられるよう配慮したのと同時に、ひび割れ誘発スリットとしての役割を担っている。大変難しい施工内容ではあるが、非常に高い精度により実現されている。

## □完成後の地域への貢献度等

情緒障害児短期治療施設は北海道初の施設であり、その構成の新しさから、医療・福祉業界においても注目を集めている。事実、入所している子供たちの症状も、以前に比べ随分と落ち着いたようである。また、隣接する精神科のミネルバ病院と、入所児童が通う星の丘小中学校との密な連携により、この地が「医療・教育・福祉」という三者のネットワークを全道全国に発信する拠点となればと願っている。

作品名称 情緒障害児短期治療施設

整理番号 14



作品名称 情緒障害児短期治療施設

整理番号 14

